

# 「Sign\_Scan\_EA\_test」マニュアル

---

## 目次

### [1. はじめに](#)

### [2. 導入方法\(インストール\)](#)

### [3. バッファとオブジェクトの確認方法](#)

[手順1: データウィンドウで確認する](#)

[手順2: オブジェクトリストで確認する](#)

[バッファ型を使う場合の注意点\(重要\)](#)

### [4. パラメーターの設定ガイド](#)

[エントリーサイン設定](#)

[決済サイン設定](#)

### [5. トラブルシューティング](#)

## 1. はじめに

---

本EAは、製品版「Sign\_Scan\_EA」をご購入いただく前に、お手持ちのインジケーターが正しく読み取れるかどうかを「無料」でテストするためのツールです。

実際の注文(エントリー)は行いませんが、サインを検知するとアラート音と画面表示でお知らせします。このテストEAでサイン検知に成功すれば、製品版EAでも動作いたします。

エントリーサインの検知に加えて、決済サインの検知テストにも対応しています。製品版の決済サイン機能をご利用予定の場合は、事前にこのテストEAで決済用インジケーターの読み取りも確認できます。

※本マニュアルでは一部「エントリー」という表現を使用していますが、本テストEAは実際の注文(エントリー)は行いません。「エントリー」は「サインの検知」と読み替えてください。

## 2. 導入方法(インストール)

---

### 1. データフォルダを開く

MT4の画面左上にあるメニュー「ファイル」をクリックし、「データフォルダを開く」を選択します。フォルダが開いたら、[MQL4]フォルダをダブルクリックして開きます。

## 2. ファイルの配置

さらに [Experts]フォルダを開き、その中にダウンロードした「Sign\_Scan\_EA\_test.ex4」を入れてください。

## 3. MT4の更新

MT4を一度閉じて再起動するか、画面左側の「ナビゲーター」パネル内を右クリックして「更新」を押します。

## 4. チャートの準備

任意のチャートを開き、読み取りたい「サインインジケーター」を先にセットして、矢印が表示される状態にしてください。

## 5. EAの適用

ナビゲーターの「エキスパートアドバイザー」欄に追加された「Sign\_Scan\_EA\_test」を、チャートへドラッグ & ドロップします。

## 6. 自動売買の許可

EAをチャートに適用する際に表示される設定画面の「全般」タブで、「自動売買を許可する」にチェックが入っていることを確認し、「OK」を押してください。

また、MT4の画面上部にある「自動売買」ボタンが有効(緑色)になっていることを確認してください。赤色の場合はボタンをクリックして緑色に切り替えてください。この設定が無効のままだとEAは動作しません。

# 3. バッファとオブジェクトの確認方法

---

## 手順1: データウィンドウで確認する

MT4でチャートにサインインジケーターを表示させます。

MT4上部メニューの「表示」→「データ・ウィンドウ」を開きます(ショートカットキー: Ctrl+D)。※チャートの左側に、数値が並んだ縦長のウィンドウが出てきます。

チャート上で、実際に「サイン(矢印)」が出ているローソク足の真上にマウスカーソルを合わせます。



そのまま動かさずに、データ・ウィンドウの中身(「Value 1」「Value 2」やインジケーター名に表示される数値)に注目してください。

## バッファ型



マウスを合わせた瞬間、データウィンドウのどこかに「1.34500」や「108.50」といった価格(または特定の数値)が表示された場合はバッファ型です。

データウィンドウにはインジケータごとにまとまって表示されます。対象インジケータの表示ブロック内で、上から何番目の値かが、設定で使う「バッファ番号」になります(先頭は0番)。

例えば「サインインジケータ\_バッファ」という名前のサインインジケータの買いサインにマウスカーソルをあわせると、以下のように表示されます。インジケータ名が書かれている上の行が先頭の行なので、バッファ番号0になります。

 サインインジケータ_バッ...	158.0618
 Value 2	

次に売りサインにマウスカーソルをあわせると、以下のように表示されます。下の行なので、バッファ番号1になります。

 サインインジケータ_バッ...	
 Value 2	158.0815

※バッファ番号は通常、先頭の行から、0、1、2、3...と番号が割り振られます。

この「サインインジケータ\_バッファ」の買いサインのバッファ番号は0、売りサインのバッファ番号は1となります。

## オブジェクト型

矢印の上にマウスを合わせても、データウィンドウの数値がずっと空欄のまま、あるいは「0.00000」から変化しない場合はオブジェクト型です。

このタイプは、内部数値ではなく「図形」として矢印を置いているだけなので、「オブジェクト読み取りモード」を使用します。

### 手順2: オブジェクトリストで確認する

データウィンドウで見分けがつかない場合は、チャート上でショートカットキー Ctrl+B を押して「表示中のオブジェクトリスト(表示中のライン等リスト)」を開いてください。

- リストにサインの名前がある場合、オブジェクト型の可能性が高いです。(例: Arrow, Wingdings など)

- リストに矢印らしきものがない場合は、リストの右側にある「すべて」ボタンを押すと表示される場合があります。
- 「すべて」ボタンを押してもリストには何も表示されない、または水平線など関係ないものしかない場合はバッファ型です。(バッファ型の矢印はオブジェクトとして扱われないため、リストに載りません)

## バッファ型を使う場合の注意点(重要)

バッファ型インジケーターの場合、見た目は矢印であっても、システム上は「オブジェクト」ではないため、必ず「バッファ読み取りモード」で使用してください。(オブジェクトモードでは反応しません)

また、バッファ読み取りモードでは、MT4の仕様上、EA側からインジケーターのパラメーターを変更することができません(常にインジケーターの「初期値」で動作します)。

もし「期間を14から20に変更したい」といった場合は、インジケーターのソースコード(mq4ファイル)入手し、パラメーターの初期値をプログラム上で書き換えてコンパイルし直すなどの対応を、お客様の方でしていただく必要があります。

## 4. パラメーターの設定ガイド

### エントリーサイン設定

#### 読み取りモード

##### バッファ読み取り

データウィンドウに数値が出るインジケーター用です。

##### オブジェクト読み取り

データウィンドウに数値が出ないインジケーター用です。

#### インジケーターファイル名(拡張子不要)

##### バッファの場合

**「必須」です。**ファイル名(.ex4除く)を正確に入力してください。インジケーターはIndicatorsフォルダの直下(一番上の階層)に入れてください。サブフォルダに入れている場合は「フォルダ名\ファイル名」の形式で入力してください(例: MyIndicators\SignalIndicator)

##### オブジェクトの場合

入力不要です(無視されます)

## エントリータイミング

### 足確定時エントリー

足が確定した瞬間に判定します。

### 即時エントリー

サインが点灯した瞬間に判定します。

## サイン検知足(0=現在足, 1=確定足)

### 「1」と設定した場合

確定した足(1本前)を見ます。

### 「0」と設定した場合

現在足(0本前)を見ます。

### 「2」と設定した場合

確定した足(2本前)を見ます。

例1: 足確定時にエントリーする場合

- ・エントリータイミング: 足確定時エントリー
- ・サイン検知足: 1 (1本前の確定した足を見る)

足が確定した瞬間に「終わったばかりの足(1本前)」を確認し、サインが残っていればエントリーします。

例2: 現在足にサインが出た瞬間にエントリーする場合

- ・エントリータイミング: 即時エントリー
- ・サイン検知足: 0 (現在の足を見る)

## 足確定後の待機秒数(受付時間)

「エントリータイミング」を「足確定時エントリー」にしている時に、新しい足が始まった直後、何秒間だけサイン判定(監視)を続けるかを決める設定です。

### 0の場合

足が確定した瞬間(始値がついたタイミング)に1回だけサインを確認します。

## 1以上の場合

足が確定してから、指定した秒数の間はサインの監視を継続します。足確定時に少し遅れてサインが出るインジケーターもあり、そのようなサインの見落としを防ぎたい場合に数秒設定してください。

※「即時エントリー」の場合は毎ティック判定するので、この設定の影響はありません。

## [バッファ] 買い/売りサインのバッファ番号

読み取りたいインジケーターのバッファ番号(内部データの出力番号)を指定します。詳しくは前述の「3. バッファとオブジェクトの確認方法」をご覧ください。

## [オブジェクト] オブジェクト名の先頭文字(空欄可)

オブジェクト読み取りの場合、特定の名前の矢印だけに反応させたい場合に入力します。

### 空欄の場合

チャート上の全ての矢印を対象にします。通常はこのままでOKです。

### Arrowと入力した場合

名前が「Arrow」で始まる矢印だけに反応し、それ以外の矢印(手動で描いたものなど)は無視します。

## [オブジェクト] 買い/売りサインコード

オブジェクト読み取りモードを使用する場合、インジケーターが使用している「サインの形(コード番号)」を指定する必要があります。

「MQL4公式 Wingdings コード一覧」とネットで検索していただくと、以下のリストが掲載されたページが見つかりますので、チャートに出ている矢印と同じ形の番号(Decimal)を探して設定してください。

## Wingdings

Characters of Wingdings used with the OBJ\_ARROW object:

32		33		34		35		36		37		38		39		40		41		42		43		44		45		46		47	
48		49		50		51		52		53		54		55		56		57		58		59		60		61		62		63	
64		65		66		67		68		69		70		71		72		73		74		75		76		77		78		79	
80		81		82		83		84		85		86		87		88		89		90		91		92		93		94		95	
96		97		98		99		100		101		102		103		104		105		106		107		108		109		110		111	
112		113		114		115		116		117		118		119		120		121		122		123		124		125		126		127	
128		129		130		131		132		133		134		135		136		137		138		139		140		141		142		143	
144		145		146		147		148		149		150		151		152		153		154		155		156		157		158		159	
160		161		162		163		164		165		166		167		168		169		170		171		172		173		174		175	
176		177		178		179		180		181		182		183		184		185		186		187		188		189		190		191	
192		193		194		195		196		197		198		199		200		201		202		203		204		205		206		207	
208		209		210		211		212		213		214		215		216		217		218		219		220		221		222		223	
224		225		226		227		228		229		230		231		232		233		234		235		236		237		238		239	
240		241		242		243		244		245		246		247		248		249		250		251		252		253		254		255	

## [オブジェクト] 買い/売りサインの色フィルターを使用

### 「false」にした場合

色は無視します。矢印の形(コード)さえ合っていれば、どんな色であってもエントリーします。

※「[オブジェクト] オブジェクト名の先頭文字」を指定している場合は、名前の一致も必要です(空欄ならサインコードだけで判断します)

### 「true」にした場合

サインコードが合っても、色が一致しなければエントリーしません。

すぐ下にある項目「[オブジェクト] 買い/売りサイン色」で指定した色と、チャート上の矢印の色が完全に一致する必要があります。例えば矢印の形が同じ複数のサインインジケータをチャートにセットし、色で区別したい場合に使用します。

## [オブジェクト] 買い/売りサイン色

矢印の「色」でフィルタリングします。

色フィルターが「false」の場合、この設定は無視され、何色でも反応します。

色フィルターが「true」の場合、ここで指定した色と完全一致する矢印だけに反応します。

例:「Red」にした場合 赤色の矢印だけに反応し、それ以外の色は無視します。

## 決済サイン設定

製品版EAの決済サイン機能で使用する「決済用インジケータ」が、正しく読み取れるかどうかをテストするための設定です。

決済サイン機能を使わない場合は、この設定は無視されます（「決済サイン機能を使用」がfalseのままであれば、従来と同じ動作です）。

### 決済サイン機能を使用

#### 「true」にした場合

決済サイン機能を使用します。決済用インジケータのサインが検知されると、該当方向のポジションを決済します。

#### 「false」にした場合

決済サイン機能を使用しません。

### 読み取りモード

エントリーサインの「読み取りモード」と同じ考え方です。決済用インジケータの種類に合わせて「バッファ読み取り」または「オブジェクト読み取り」を選択してください。

※エントリーサインと決済サインで、異なる読み取りモードを選択することも可能です。例えば、エントリーはバッファ型、決済はオブジェクト型、といった組み合わせも使えます。

### インジケータファイル名(拡張子不要)

決済用インジケータのファイル名を入力します。入力方法はエントリーサインの場合と同じです。

※エントリーと同じインジケータを決済にも使う場合は、同じファイル名を入力してください。その場合はバッファ番号やサインコードで、エントリーサインと決済サインを区別します。

### サイン検知足(0=現在足, 1=確定足)

決済サインを検知する足を指定します。考え方はエントリーサインの「サイン検知足」と同じです。

#### 「1」と設定した場合

確定した足(1本前)の決済サインを見ます。

#### 「0」と設定した場合



現在足(0本前)の決済サインを見ます。

※決済サインには「決済タイミング」を設定するパラメーターはありません。決済サインの判定は毎ティック(値動きがあるたび)自動的に行われます。エントリータイミングの設定(足確定時エントリー/即時エントリー)や足確定後の待機秒数は、決済サインには影響しません。

ただし「サイン検知足」の設定により、実質的な決済タイミングをコントロールできます。

- ・検知足を「0」(現在足)にした場合、現在足に決済サインが出た瞬間に決済されます。
- ・検知足を「1」(確定足)にした場合、足が確定して決済サインが確定してから決済されます。

### [バッファ] 買いポジ決済バッファ番号

買いポジションを決済するサインのバッファ番号を指定します。

※デフォルトは「1」です。一般的な決済用インジケーターでは、買いポジションの決済＝売りサイン(バッファ番号1)であることが多いため、この初期値になっています。

### [バッファ] 売りポジ決済バッファ番号

売りポジションを決済するサインのバッファ番号を指定します。

※デフォルトは「0」です。一般的な決済用インジケーターでは、売りポジションの決済＝買いサイン(バッファ番号0)であることが多いため、この初期値になっています。

### [オブジェクト] 先頭文字(空欄可)

エントリーサインの「オブジェクト名の先頭文字」と同じ考え方です。決済用インジケーターのオブジェクト名でフィルタリングしたい場合に入力します。空欄の場合は全ての矢印を対象にします。

### [オブジェクト] 買いポジ決済コード

買いポジションを決済するサインの矢印コード番号を指定します。

※デフォルトは「234」(下向き矢印)です。買いポジションの決済は下向き矢印(売りサイン)であることが一般的なため、この初期値になっています。

### [オブジェクト] 売りポジ決済コード

売りポジションを決済するサインの矢印コード番号を指定します。

※デフォルトは「233」（上向き矢印）です。売りポジションの決済は上向き矢印（買いサイン）であることが一般的なため、この初期値になっています。

#### [オブジェクト] 買い決済の色フィルター使用

エントリーサインの色フィルターと同じ考え方です。買いポジション決済サインを色でもフィルタリングする場合に「true」にしてください。

#### [オブジェクト] 買い決済サイン色

色フィルターが「true」の場合に、買いポジション決済サインの色を指定します。

#### [オブジェクト] 売り決済の色フィルター使用

売りポジション決済サインを色でもフィルタリングする場合に「true」にしてください。

#### [オブジェクト] 売り決済サイン色

色フィルターが「true」の場合に、売りポジション決済サインの色を指定します。

#### アラートを鳴らす

サインを検知した時に、アラート音を鳴らすかどうかを設定します。

「true」にした場合、エントリーサインおよび決済サインの検知時にアラート音とポップアップが表示されます。

「false」にした場合、アラート音とポップアップは表示されません。チャート上の画面表示とエキスパートログへの記録のみ行われます。

## 5. トラブルシューティング

サインが出ているのに検知されない場合は、以下の項目を確認してください。

### ①読み取りモードが正しいか

バッファ型のインジケーターに対して「オブジェクト読み取り」を選択している、またはその逆の場合、サインは検知されません。「3. バッファとオブジェクトの確認方法」を参考に、正しいモードを選択してください。

### ②インジケーターファイル名が正しいか(バッファ読み取りの場合)

ファイル名は大文字・小文字を区別します。スペースの有無も含め、正確に入力してください。拡張子(.ex4)は不要です。エキスパートログ(MT4下部の「エキスパート」タブ)に「iCustomエラー」と表示されている場合、ファイル名が間違っているか、インジケーターが正しい場所に配置されていない可能性があります。

### ③インジケーターの配置場所が正しいか(バッファ読み取りの場合)

インジケーターはMT4の「MQL4」→「Indicators」フォルダの直下に入れてください。サブフォルダに入れている場合は、パラメーターに「フォルダ名 ¥ ファイル名」の形式で入力する必要があります。

### ④バッファ番号が正しいか(バッファ読み取りの場合)

データウィンドウで確認したバッファ番号と、パラメーターに入力した番号が一致しているか確認してください。バッファ番号は0から始まります。買いと売りの番号が逆になっていないかも確認してください。

### ⑤サインコードが正しいか(オブジェクト読み取りの場合)

チャート上の矢印を右クリック→「Arrowプロパティ」でArrowコードを確認し、パラメーターに設定した番号と一致しているか確認してください。

### ⑥エントリータイミングとサイン検知足の組み合わせが正しいか

足確定時エントリーの場合はサイン検知足を「1」、即時エントリーの場合はサイン検知足を「0」に設定するのが一般的です。サイン検知足を「1」にしているのに、まだ確定していない現在足のサインを検知しようとしている場合、反応しません。

### ⑦自動売買が有効になっているか

MT4の画面上部にある「自動売買」ボタンが有効(緑色)になっているか確認してください。無効(赤色)の場合、EAは動作しません。

## ⑧決済サインが検知されない場合

決済サイン機能を「true」にしているのに検知されない場合は、以下を確認してください。

- ・決済サインの読み取りモード(バッファ/オブジェクト)が正しいか確認してください。確認方法はエントリーサインと同じです。

- ・決済用インジケータのファイル名が正しいか確認してください(バッファ読み取りの場合)。エキスパートログに「iCustomエラー(Exit)」と表示されている場合、ファイル名が間違っているか、インジケータが正しい場所に配置されていない可能性があります。

- ・バッファ番号やサインコードが正しいか確認してください。決済サインのデフォルト値はエントリーサインと逆(買いポジ決済=バッファ1/コード234、売りポジ決済=バッファ0/コード233)になっています。

- ・決済サインの検知足が正しいか確認してください。サイン検知足を「1」にしている場合、確定した足のサインのみ検知します。